

「第32回吉田秀和賞」贈呈式 ご取材のお願い

平成2年に創設されました吉田秀和賞は、優れた芸術評論を発表した人に対して賞を贈呈し、芸術文化を振興することを目的として当財団が運営しております。

第32回目となりました今回は、昨年に引き続き審査委員に磯崎新氏と片山杜秀氏を迎え、厳正に審査を行ない、**新井高子氏の『唐十郎のせりふ—二〇〇〇年代戯曲をひらく』(幻戯書房 令和3年12月刊)**を受賞作品として決定いたしました。つきましては、賞の贈呈式を下記のとおり開催いたします。ご多用のところとは存じますが、ご取材いただけましたら幸いに存じます。

記

日時 : 令和4年11月12日(土)14時～15時 (プレス受付:13時30分～)
会場 : 水戸芸術館 会議場
内容 : 表彰状の授与/講評/受賞者あいさつ ほか
受賞者 : 新井高子 (あらい・たかこ)
肩書き : 詩人、埼玉大学准教授



「吉田秀和賞」について

- 対象 音楽・演劇・美術などの各分野で、優れた芸術評論を発表した人に対して
- 正賞 表彰状 ■副賞 賞金 200万円
- 審査委員 磯崎 新 (建築家)、片山 杜秀 (評論家・慶應義塾大学法学部教授)



[著者略歴]

新井高子 (あらい・たかこ)

1966年、群馬県桐生市生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程修了。詩人。埼玉大学准教授。詩誌『ミテ』編集人。詩集に『タマシィ・ダンス』(未知谷、第41回小熊秀雄賞受賞)、『ベットと織機』(未知谷)等。英訳詩集に『Factory Girls』(Action Books、Jeffrey Angles編、第1回Sarah Maguire Prize最終候補)等。編著に『東北おんば訳 石川啄木のうた』(未来社)。共著に『世界文学としての〈震災後文学〉』(明石書店)等。企画制作した映画に『東北おんばのうた——つなみの浜辺で』(監督・鈴木余位、山形国際ドキュメンタリー映画祭2021アジア千波万波部門入選)。アイオワ大学国際創作プログラム2019招待参加。

【お問合せ】

公益財団法人水戸市芸術振興財団 吉田秀和賞担当 大津良夫 川崎麻里子
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8111 FAX 029-227-8110

《取材申し込み》

FAX. 029-227-8110

【御社名】

【御芳名】

人数

名

【連絡先】 TEL.